

第3回 白井市在宅医療・介護連携、認知症対策推進協議会

令和5年2月2日(木) 開催

「白井市在宅医療・介護連携、認知症対策推進協議会」では、高齢者が自宅での療養が必要になっても、認知症になっても、住み慣れた地域で、自分らしい暮らしが続けられることを目指して、様々な課題の解決に向けた検討を行っています。協議会議事録については、市ホームページにてご覧いただけます。

第3回協議会の主な内容

- ・課題別ワーキングの取組み報告、在宅医療後方支援制度の実績報告、徘徊保護高齢者への対応の実績報告を行いました。
- ・認知症初期集中支援チーム事業事例集についての報告を行いました。
- ・次年度の在宅医療・介護連携推進事業、認知症総合支援事業の実施方針について報告を行いました。
- ・意見交換として「認知症高齢者への地域の見守り体制について」報告を行いました。

認知症初期集中支援チームについて

認知症初期集中支援チームで関わった事例について報告を行いました。

事業所からは「認知症初期集中支援チーム」の活動についてケアマネへは浸透してきている印象とのことでした。市民には、なかなかチームの存在が周知できていないのではとの意見がありました。

委員さんからは、チームの名称に「認知症」と入っているだけで拒否する人もいるのではないかととの意見をいただいたことから、今回、市内の居宅介護支援事業所や地域包括支援センターから親しみやすい名称を募集することとしました。介護関係事業者や市民からもわかりやすく相談しやすい窓口として周知していきます。なお、事例集については、居宅介護支援事業所、病院、薬局に配布する予定です。

また、意見交換では「認知症高齢者への地域の見守り体制について」をテーマにご意見をいただきました。気軽に相談できる場所があるとよい、地域でのコミュニティづくりの大切さ、徘徊しても安心してみんなが見守る地域づくりが大切だと改めて考えさせられました。今後の仕組みを考えていく上で参考にしたいと思います。



次年度の検討体制について

令和4年度は「医療・介護連携WG」「多職種連携情報共有システム（ICT普及）WG」「災害WG」として進めてきましたが、「災害WG」は、市の取り組みの方向性がまだはっきり示されていないことから内部での調整が必要であるため、令和5年度では別のワーキンググループを立ち上げる予定です。今までの取り組みを見直し、来年度の取り組みを具体的に検討していきたいと思ひます。

👉トピックス 2/8に「介護施設従事者向け急変時対応講習会」を開催しました。👈

一昨年から企画していた講習会を開催しました。日本医科大学千葉北総病院救命センターの小田有哉医師と印西地区消防組合の救急救命士の方のご協力のもと開催をすることができました。市内の介護施設10か所から39名の方が参加され、心肺蘇生法などの実技や転倒場面での観察ポイント、グループディスカッションでは、介護施設での急変時の課題などを話し合いました。参加された皆様からはさまざまな施設の立場から意見を出し合うことができ、大変勉強になったとの感想もありました。次回に向けて、企画を考えていきたいと思ひます。